

中国における「家庭内冷暴力」に関する研究  
— 子どもの立場からインタビュー調査を通して —

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
LIU Qiang

本研究は「冷暴力」の中の一つである「家庭内冷暴力」に焦点を当てた。「冷暴力」という言葉は、2002年中国法学会で発表されたが、その定義はいまだ不明確である。先行研究によれば、都会で暮らす家庭に多発し、高学歴の男性加害者が多く、証明することが困難である。本研究では、中国における「家庭内冷暴力」の実情を明らかにすることを目的とし、「家庭内冷暴力」を体験している子ども、あるいは体験したことのある子どもを対象に計5名にチャットを用いた半構造化インタビューを行った。

中国における「家庭内冷暴力」は、家族構成員の間に発生する身体的および言語的コミュニケーションの問題として表れていた。夫婦間において情緒面で問題が出現し、行動に転化するという共通のパターンが見出された。「家庭内冷暴力」という「手段」があるからこそクールダウンができる家族が存在している一方で、「家庭内冷暴力」が原因で離婚に至る家族も存在する。「家庭内冷暴力」は家族主義と個人主義の揺らぎの中で構築されたものと考えられる。また、「家庭内冷暴力」は必ずしも単独に発生するわけではなく、「熱暴力」の有無やそれとの連関についても考慮する必要があることが明らかになった。「熱-冷」の暴力は、両者とも親密な関係性における暴力であり、両義的な視点で捉えることによって、より積極的にコミュニケーションや暴力の問題を考えることができよう。